

奨励賞

あたり前を大切に

横浜市立あかね台中学校 3年 やまむら つぐみ 山村 緒実

日頃使っている物や住んでいた町がなくなってしまう。皆さんはそんな経験をしたことはありませんか。私は小学1年生の冬、「東日本大震災」でこれまでにないほど不安な思いをしました。

私は当時、宮城県に住んでいて毎日楽しく学校に通っていました。地震が起きる前、私はいつものように学校の下駄箱で靴を履き、家に帰ろうとしていました。すると突然、誰かの「地震！」と叫ぶ声が聞こえ、ゴーというけたたましい音と共に地面が激しく揺れだしました。私は慌てて外に逃げようとしたのですが、近くにいた先生が私を守るために「動くな！」と怒鳴り私の上に覆い被さってきました。どれだけ長い間そうしていたでしょうか。やっと揺れが収まると私は体育館に連れていかれ、そこで母を待つように言われました。体育館の窓の外を見ていると雪が激しく降っていて、近くの駅から来た怯えた表情の人達が続々と体育館に入って来ていました。そうしているうちに、1人、また1人と親の迎えが来て帰っていつているのに気づきました。時間が経つにつれ、周りの友達はどうも帰っていき、とうとう1年生は私1人になっていました。不安と寂しさで胸が張り裂けそうでした。なので、母が慌てて体育館に入って来た時、私は母の元へ走り、安心して大声で泣きながら抱き付いていました。母の存在に感謝した瞬間でした。

しかし、それから母に連れられ、行ったのは、家ではなくマンションの避難所でした。家だと何が起きるか分からないからと言われ、一晩避難所で過ごし、晩ご飯もあめだけでした。水もガスも電気もない。いつまた大きな地震が来るか分からない。そんな中で不安だけが募るばかりでした。その時、初めていつも使っている資源や物の大切さを知りました。それまでの私は周りに生活する上で必要な物がある

のはあたり前、誰かが自分を守ってくれるのはあたり前、と思い込み、ぜいたくばかりしてきました。だから、いざ物がなくなった時、非常に戸惑い、地震に対してどうしようもない感情を抱きました。しかし、そんな私を支えてくれたのはいつも私の側に居てくれた家族や毎日のように挨拶を交わしていた友達や地域の方々でした。みんなが私に優しく声をかけてくれたり、食べ物を分けてくれたりしたおかげで、私はこれから何があってもがんばろうと前向きな気持ちを取り戻せたのだと思います。

その日から何日か経ち、水やガスや電気が復旧し、町も復興し、また家で楽しく暮らせるようになりました。けれども、あの悲惨な出来事はいつまでも忘れることなく私の頭の隅に記憶として残っています。そして、あの時私を前向きな気持ちにしてくださった地域の方々や友達、支えてくれた家族、普段使っている資源、私の住んでいる町への感謝の気持ちを忘れず、ずっと心に留めるようにしています。

今、近い内に東日本大震災の約1.7倍の被害が出ると予測されている、「南海トラフ地震」が来ると言われています。地震は自然災害なので誰も止めることが出来ません。人間の力ではどうすることも出来ない問題です。なので必ず起こる地震を乗り越えていくためには、私のように実際に被災地で生活した人達が、当時の様子や気持ちを、被災地に住んでいなかった人達や、大震災の恐ろしさを体験していない世代の子達に語り継いでいく必要があると思います。そして、今私達の身の回りにある、あたり前の存在の物や人に感謝の気持ちを持つことも大切なことだと思います。「南海トラフ地震」が来た時に、誰もがみんな助け合い、あたり前に感謝する、日本はそういった国であると私は信じています。